

1 漸近線が 2 直線 $x=3$, $y=2$ である直角双曲線が, 点 $(4, 3)$ を通るという。この直角双曲線をグラフにもつ分数関数を $y=\frac{ax+b}{cx+d}$ の形で表せ。

3 次の条件によって定められる数列 $\{a_n\}$ の極限を求めよ。
 $a_1=1, a_{n+1}-a_n=\left(\frac{1}{3}\right)^{n-1} \ (n=1, 2, 3, \cdots)$

6 次の 2 つの条件をともに満たす整式で表された関数 $f(x)$ を求めよ。
 $\lim_{x \rightarrow \infty} \frac{f(x)-2x^3}{x^2}=1, \lim_{x \rightarrow 0} \frac{f(x)}{x}=-3$

2 $S_n=1+2+3+\cdots+n$ のとき, $\lim_{n \rightarrow \infty} (\sqrt{2S_{n+1}}-\sqrt{2S_n})$ を求めよ。

4 次の無限級数は収束することを示し, その和を求めよ。
 $\frac{1}{2 \cdot 4}+\frac{1}{3 \cdot 5}+\frac{1}{4 \cdot 6}+\cdots+\frac{1}{(n+1)(n+3)}+\cdots$

7 関数 $f(x)=\sqrt{7x-3}-1$ について, $f(x)$ の逆関数を $f^{-1}(x)$ とする。不等式 $f^{-1}(x) \leq f(x)$ を解け。

5 次の極限を求めよ。
 $\lim_{x \rightarrow 2} \frac{1}{x^2-4}$

[8] 曲線 $y=\sqrt{x+2}$ と直線 $y=x+a$ が共有点をもつとき、定数 a のとりうる値の範囲を求めよ。

[9] n は自然数とし、 $t>0$ とする。 $\lim_{n\rightarrow\infty}\frac{n}{(1+t)^n}=0$ を示せ。

[10] a と b を $0\leq a\leq 1$ 、 $0\leq b<1$ を満たす定数とする。数列 $\{a_n\}$ を次の条件によって定める。

$$a_1=a,\quad a_{n+1}=\frac{1}{2}(a_n^2+b)\quad (n=1,2,3,\cdots)$$

また、 $c=1-\sqrt{1-b}$ とおく。以下では、すべての自然数 n に対して $0\leq a_n\leq 1$ が成り立つことは使ってよい。

(1) $a_{n+1}-c=\frac{1}{2}(a_n+c)(a_n-c)$ が成り立つことを示せ。

(2) $\lim_{n\rightarrow\infty}a_n=c$ が成り立つことを示せ。

[11] n を 2 以上の自然数とし、原点 O を中心とする単位円周上に $2n+1$ 個の相異なる点

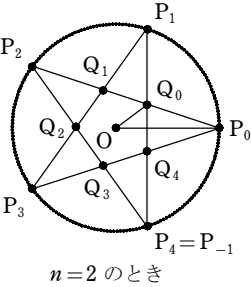
$$P_k\left(\cos\frac{2\pi k}{2n+1},\sin\frac{2\pi k}{2n+1}\right)\quad (k=0,1,\cdots,2n)$$

をとる。また整数 j に対して、 j を $2n+1$ で割った余りが $k=0,1,\cdots,2n$ のとき、 $P_j=P_k$ と約束する。この記法の下で、線分 P_kP_{k+n} と線分 $P_{k+1}P_{k+1-n}$ との交点を Q_k ($k=0,1,\cdots,2n$) とおく。点 $P_0, Q_0, P_1, Q_1, \cdots, P_{2n}, Q_{2n}, P_0$ を順に結んでできる折れ線が囲む図形を K_n とし、その面積を A_n とする。

(1) $\angle OP_0Q_0$ および $\angle P_0OQ_0$ の値を n を用いて表せ。

(2) (1) で求めた $\angle OP_0Q_0$ の値を θ_n とおく。 $\triangle OP_0Q_0$ の面積を θ_n を用いて表せ。

(3) 極限 $\lim_{n\rightarrow\infty}A_n$ を求めよ。



- 1 漸近線が2直線 $x=3$, $y=2$ である直角双曲線が、点 $(4, 3)$ を通るという。この直角双曲線をグラフにもつ分数関数を $y = \frac{ax+b}{cx+d}$ の形で表せ。

解答 $y = \frac{2x-5}{x-3}$ (9)

2直線 $x=3$, $y=2$ が漸近線であるから、求める関数は $y = \frac{k}{x-3} + 2$ ($k \neq 0$) とおける。

グラフが点 $(4, 3)$ を通ることから

$$3 = \frac{k}{4-3} + 2 \quad \text{よって} \quad k=1$$

これは $k \neq 0$ を満たす。

したがって $y = \frac{1}{x-3} + 2$ (6)

よって、求める関数は $y = \frac{2x-5}{x-3}$

$y = \frac{ax+b}{cx+d}$ とおいたとき、
分母が0にならないように $c \neq 0$ とおき

↑
この式は漸近線の式

- 2 $S_n = 1+2+3+\dots+n$ のとき、 $\lim_{n \rightarrow \infty} (\sqrt{2S_{n+1}} - \sqrt{2S_n})$ を求めよ。

解答 1 (9)

$S_n = \frac{1}{2}n(n+1)$, $S_{n+1} = \frac{1}{2}(n+1)(n+2)$ であるから

$$\begin{aligned} \sqrt{2S_{n+1}} - \sqrt{2S_n} &= \sqrt{(n+1)(n+2)} - \sqrt{n(n+1)} \\ &= \frac{(n+1)(n+2) - n(n+1)}{\sqrt{(n+1)(n+2)} + \sqrt{n(n+1)}} \\ &= \frac{2(n+1)}{\sqrt{(n+1)(n+2)} + \sqrt{n(n+1)}} \end{aligned}$$

したがって

$$\begin{aligned} \lim_{n \rightarrow \infty} (\sqrt{2S_{n+1}} - \sqrt{2S_n}) &= \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{2(n+1)}{\sqrt{(n+1)(n+2)} + \sqrt{n(n+1)}} \\ &= \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{2(1+\frac{1}{n})}{\sqrt{(1+\frac{1}{n})(1+\frac{2}{n})} + \sqrt{1 \cdot (1+\frac{1}{n})}} \\ &= \frac{2 \cdot 1}{1+1} = 1 \end{aligned}$$

- 3 次の条件によって定められる数列 $\{a_n\}$ の極限を求めよ。

$$a_1 = 1, a_{n+1} - a_n = \left(\frac{1}{3}\right)^{n-1} \quad (n=1, 2, 3, \dots)$$

解答 $\frac{5}{2}$ (9)

$b_n = a_{n+1} - a_n$ とすると $b_n = \left(\frac{1}{3}\right)^{n-1}$

数列 $\{b_n\}$ は数列 $\{a_n\}$ の階差数列であるから、 $n \geq 2$ のとき

$$\begin{aligned} a_n &= a_1 + \sum_{k=1}^{n-1} b_k = 1 + \sum_{k=1}^{n-1} \left(\frac{1}{3}\right)^{k-1} \\ &= 1 + \frac{1 - \left(\frac{1}{3}\right)^{n-1}}{1 - \frac{1}{3}} = 1 + \frac{3}{2} \left\{1 - \left(\frac{1}{3}\right)^{n-1}\right\} \end{aligned}$$

$\lim_{n \rightarrow \infty} \left(\frac{1}{3}\right)^{n-1} = 0$ であるから $\lim_{n \rightarrow \infty} a_n = 1 + \frac{3}{2} = \frac{5}{2}$

項は
 $\frac{1}{3} \rightarrow \frac{1}{3}$

- 4 次の無限級数は収束することを示し、その和を求めよ。

$$\frac{1}{2 \cdot 4} + \frac{1}{3 \cdot 5} + \frac{1}{4 \cdot 6} + \dots + \frac{1}{(n+1)(n+3)} + \dots$$

解答 $\frac{5}{12}$ (9)

第 n 項までの部分 and を S_n とすると

$$\begin{aligned} S_n &= \frac{1}{2 \cdot 4} + \frac{1}{3 \cdot 5} + \frac{1}{4 \cdot 6} + \dots + \frac{1}{(n+1)(n+3)} \\ &= \frac{1}{2} \left\{ \left(\frac{1}{2} - \frac{1}{4}\right) + \left(\frac{1}{3} - \frac{1}{5}\right) + \left(\frac{1}{4} - \frac{1}{6}\right) + \dots + \left(\frac{1}{n} - \frac{1}{n+2}\right) + \left(\frac{1}{n+1} - \frac{1}{n+3}\right) \right\} \\ &= \frac{1}{2} \left(\frac{1}{2} + \frac{1}{3} - \frac{1}{n+2} - \frac{1}{n+3} \right) \end{aligned}$$

よって $\lim_{n \rightarrow \infty} S_n = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{2} \left(\frac{1}{2} + \frac{1}{3} - \frac{1}{n+2} - \frac{1}{n+3} \right) = \frac{1}{2} \left(\frac{1}{2} + \frac{1}{3} \right) = \frac{5}{12}$

したがって、この無限級数は収束して、その和は $\frac{5}{12}$ である。

$-\frac{1}{n+2} - \frac{1}{n+3}$ と通分
(ていそき)

- 5 次の極限を求めよ。 $\lim_{x \rightarrow 2} \frac{1}{x^2 - 4}$

解答 極限はない (9)

$$\lim_{x \rightarrow 2+0} \frac{1}{x^2 - 4} = \infty, \quad \lim_{x \rightarrow 2-0} \frac{1}{x^2 - 4} = -\infty$$

よって片側極限が一致しないので、 $x \rightarrow 2$ のときの極限はない。

片側極限の
議論
↓
5

- 6 次の2つの条件をともに満たす整式で表された関数 $f(x)$ を求めよ。

$$\lim_{x \rightarrow \infty} \frac{f(x) - 2x^3}{x^2} = 1, \quad \lim_{x \rightarrow 0} \frac{f(x)}{x} = -3$$

解答 $f(x) = 2x^3 + x^2 - 3x$ (9)

極限値 $\lim_{x \rightarrow \infty} \frac{f(x) - 2x^3}{x^2}$ が存在するから $f(x) - 2x^3$ は2次以下の整式である。

よって、 $f(x) = 2x^3 + ax^2 + bx + c$ とおける。

$$\lim_{x \rightarrow \infty} \frac{f(x) - 2x^3}{x^2} = \lim_{x \rightarrow \infty} \left(a + \frac{b}{x} + \frac{c}{x^2} \right) = a$$

$\lim_{x \rightarrow \infty} \frac{f(x) - 2x^3}{x^2} = 1$ より $a=1$ (3)

$\lim_{x \rightarrow 0} \frac{f(x)}{x} = -3$ より $\lim_{x \rightarrow 0} f(x) = \lim_{x \rightarrow 0} \frac{f(x)}{x} \cdot x = 0$

したがって、 $f(0) = 0$ より $c=0$ (2)

このとき $\lim_{x \rightarrow 0} \frac{f(x)}{x} = \lim_{x \rightarrow 0} (2x^2 + x + b) = b$

$\lim_{x \rightarrow 0} \frac{f(x)}{x} = -3$ より $b=-3$ (3)

したがって $f(x) = 2x^3 + x^2 - 3x$

- 7 関数 $f(x) = \sqrt{7x-3} - 1$ について、 $f(x)$ の逆関数を $f^{-1}(x)$ とする。不等式 $f^{-1}(x) \leq f(x)$ を解け。

$y = \sqrt{7x-3} - 1$ について定義域 $x \geq \frac{3}{7}$, 値域 $y \geq -1$

x と y を入れ替えて $x = \sqrt{7y-3} - 1$

y について解いて $y = \frac{1}{7}(x+1)^2 + 3$

よって逆関数 $f^{-1}(x) = \frac{1}{7}(x^2 + 2x + 4)$ ($x \geq -1$) (5)

2つのグラフ $y = f(x)$, $y = f^{-1}(x)$ は直線 $y = x$

(に交) して2点あり、交点から、

不等式 $f^{-1}(x) \leq f(x)$ の解は不等式 $f^{-1}(x) \leq x$

の解は $-2 \leq x \leq 3$ 。

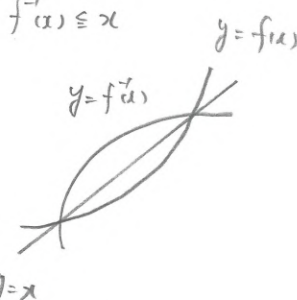
$$\frac{1}{7}(x^2 + 2x + 4) \leq x$$

$$x^2 + 2x + 4 \leq 7x$$

$$(x-1)(x-4) \leq 0$$

$$1 \leq x \leq 4$$

($-2 \leq x \leq 3$ は $f(x)$, $f^{-1}(x)$ の
定義域にそなう)

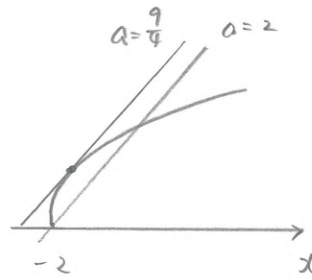


- 8 曲線 $y = \sqrt{x+2}$ と直線 $y = x+a$ が共有点をもつとき、定数 a のとりうる値の範囲を求めよ。

$$y = \sqrt{x+2} \quad (\text{定義域 } x \geq -2)$$

$$\text{と直線 } y = x+a \text{ が}$$

接点をもつとき、



$$y' = \frac{1}{2}(x+2)^{-\frac{1}{2}} \cdot (x+2)' = \frac{1}{2\sqrt{x+2}} \quad \text{よって接点の傾きは}$$

$$1 \text{ であるから } \frac{1}{2\sqrt{x+2}} = 1 \quad \text{よって } \sqrt{x+2} = \frac{1}{2}, \quad x = -\frac{7}{4}$$

$$\text{直線 } y = x+a \text{ が点 } (-\frac{7}{4}, \frac{1}{2}) \text{ を通るとき、 } a = \frac{9}{4}$$

以上より、

$$a \leq \frac{9}{4}$$

接点の議論も
(て欲しい)

強さの不等式を
示す問題
なので、5問、7問、10問
解ける

- 9 n は自然数とし、 $t > 0$ とする。 $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{n}{(1+t)^n} = 0$ を示せ。

2項定理より $n \geq 2$ のとき

$$0 < \frac{n}{(1+t)^n} \leq \frac{n}{1 + n t + \frac{n(n-1)}{2} t^2}$$

が成り立つ。よって

$$0 < \frac{n}{(1+t)^n} \leq \frac{\frac{1}{n}}{\frac{1}{n^2} + \frac{1}{n}t + \frac{1}{2}(1-\frac{1}{n})t^2}$$

$$n \rightarrow \infty \text{ のとき } \frac{1}{n} + \frac{1}{n}t + \frac{1}{2}(1-\frac{1}{n})t^2 \rightarrow 0$$

(よさめ) の原理より

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{n}{(1+t)^n} = 0$$

- 10 a と b を $0 \leq a \leq 1$, $0 \leq b < 1$ を満たす定数とする。数列 $\{a_n\}$ を次の条件によって定める。

$$a_1 = a, \quad a_{n+1} = \frac{1}{2}(a_n^2 + b) \quad (n=1, 2, 3, \dots)$$

また、 $c = 1 - \sqrt{1-b}$ とおく。

(1) $0 \leq a_n \leq 1$ が成り立つことを示せ。

$$(1) \quad a_{n+1} - c = \frac{1}{2}(a_n + c)(a_n - c) \text{ が成り立つことを示せ。}$$

$$(2) \quad \lim_{n \rightarrow \infty} a_n = c \text{ が成り立つことを示せ。}$$

(1)

$$c = 1 - \sqrt{1-b} \quad b = 1 - (c-1)^2 = 2c - c^2$$

$$\begin{aligned} a_{n+1} - c &= \frac{1}{2}(a_n^2 + b) - c \\ &= \frac{1}{2}(a_n^2 + 2c - c^2 - 2c) \\ &= \frac{1}{2}(a_n^2 - c^2) = \frac{1}{2}(a_n + c)(a_n - c) \end{aligned}$$

$$(2) \quad a_n \text{ は } 0 \leq a_n \leq 1 \text{ である。}$$

また、 $0 \leq b < 1$ より $0 < c < 1$ である。

$$0 \leq c < 1 \text{ が成り立つ。}$$

$$\text{よって } 0 \leq \frac{1}{2}(a_n + c) \leq \frac{1}{2}(1+c) < 1$$

が成り立つので

$$|a_{n+1} - c| \leq \frac{1}{2}(1+c)|a_n - c|$$

この不等式を繰り返して用いると

$$0 \leq |a_n - c| \leq \left\{\frac{1}{2}(1+c)\right\}^{n-1} |a_1 - c|$$

が成り立つ。 $0 < \frac{1}{2}(1+c) < 1$ より

$$n \rightarrow \infty \text{ のとき } \left\{\frac{1}{2}(1+c)\right\}^{n-1} |a_1 - c| \rightarrow 0$$

よって $a_n \rightarrow c$ である。

$$\lim_{n \rightarrow \infty} |a_n - c| = 0 \quad \text{よって} \quad \lim_{n \rightarrow \infty} a_n = c$$

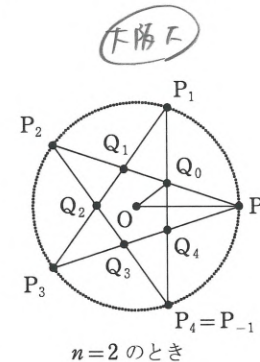
- 11 n を 2 以上の自然数とし、原点 O を中心とする単位円周上に $2n+1$ 個の異なる点

$P_k \left(\cos \frac{2\pi k}{2n+1}, \sin \frac{2\pi k}{2n+1} \right) \quad (k=0, 1, \dots, 2n)$ をとる。また整数 j に対して、 j を $2n+1$ で割った余りが $k=0, 1, \dots, 2n$ のとき、 $P_j = P_k$ と約束する。この記法の下で、線分 $P_k P_{k+n}$ と線分 $P_{k+1} P_{k+1-n}$ との交点を $Q_k \quad (k=0, 1, \dots, 2n)$ とおく。点 $P_0, Q_0, P_1, Q_1, \dots, P_{2n}, Q_{2n}, P_0$ を順に結んでできる折れ線が囲む図形を K_n とし、その面積を A_n とする。

(1) $\angle OP_0 Q_0$ および $\angle P_0 O Q_0$ の値を n を用いて表せ。

(2) (1) で求めた $\angle OP_0 Q_0$ の値を θ_n とおく。 $\triangle OP_0 Q_0$ の面積を θ_n を用いて表せ。

(3) 極限 $\lim_{n \rightarrow \infty} A_n$ を求めよ。



$n=2$ のとき

$$\text{解答 (1) } \angle OP_0 Q_0 = \frac{\pi}{2(2n+1)}, \quad \angle P_0 O Q_0 = \frac{\pi}{2n+1}$$

$$(2) \quad \frac{\sin \theta_n \sin 2\theta_n}{2 \sin 3\theta_n}$$

$$(3) \quad \frac{\pi}{3}$$

$$(1) \quad \text{点 } P_k \text{ のとり方から } \angle P_0 O P_n = \frac{2\pi n}{2n+1}$$

$\triangle P_0 O P_n$ は $OP_0 = OP_n$ の二等辺三角形であるから

$$\begin{aligned} \angle OP_0 Q_0 &= \frac{1}{2}(\pi - \angle P_0 O P_n) \\ &= \frac{1}{2}\left(\pi - \frac{2\pi n}{2n+1}\right) = \frac{\pi}{2(2n+1)} \end{aligned}$$

また、 $P_0 P_n = P_1 P_{1-n}$ であるから、図形の対称性により

$$\angle P_0 O Q_0 = \frac{1}{2} \angle P_0 O P_1 = \frac{1}{2} \cdot \frac{2\pi}{2n+1} = \frac{\pi}{2n+1}$$

$$(2) \quad \angle OP_0 Q_0 = \theta_n \text{ とおくと、(1) より } \angle P_0 O Q_0 = 2\theta_n$$

$$\triangle OP_0 Q_0 \text{ において正弦定理により } \frac{OQ_0}{\sin \angle OP_0 Q_0} = \frac{OP_0}{\sin \angle OQ_0 P_0}$$

$$\text{よって } OQ_0 = \frac{1}{\sin(\pi - 3\theta_n)} \cdot \sin \theta_n = \frac{\sin \theta_n}{\sin 3\theta_n}$$

$$\begin{aligned} \text{ゆえに } \triangle OP_0 Q_0 &= \frac{1}{2} \cdot OP_0 \cdot OQ_0 \sin \angle P_0 O Q_0 = \frac{1}{2} \cdot 1 \cdot \frac{\sin \theta_n}{\sin 3\theta_n} \cdot \sin 2\theta_n \\ &= \frac{\sin \theta_n \sin 2\theta_n}{2 \sin 3\theta_n} \end{aligned}$$

(3) K_n は $\triangle OP_0 Q_0$ を $2(2n+1)$ 個合わせた図形とみることができるから

$$A_n = 2(2n+1) \cdot \triangle OP_0 Q_0 = 2(2n+1) \cdot \frac{\sin \theta_n \sin 2\theta_n}{2 \sin 3\theta_n}$$

$$= 2(2n+1) \cdot \frac{\sin \theta_n}{\theta_n} \cdot \frac{\sin 2\theta_n}{2\theta_n} \cdot \frac{3\theta_n}{\sin 3\theta_n} \cdot \frac{\theta_n}{3}$$

$$\theta_n = \frac{\pi}{2(2n+1)} \text{ より } A_n = \frac{\pi}{3} \cdot \frac{\sin \theta_n}{\theta_n} \cdot \frac{\sin 2\theta_n}{2\theta_n} \cdot \frac{3\theta_n}{\sin 3\theta_n}$$

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \theta_n = 0 \text{ であるから } \lim_{n \rightarrow \infty} A_n = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{\pi}{3} \cdot \frac{\sin \theta_n}{\theta_n} \cdot \frac{\sin 2\theta_n}{2\theta_n} \cdot \frac{3\theta_n}{\sin 3\theta_n} = \frac{\pi}{3}$$

(2n+1) 個の三角形

